

小児の養育における父親の役割について、第2報

(分担研究：小児の健康と養育条件に関する研究)

高橋種昭* 高野 陽** 小宮山要***

窪 龍子**** 丹羽洋子*****

要約：今年度は、前年度に計画し、一部実施した調査1. 調査2. 調査3.の3種類の調査を行い、次のような結果を得た。

調査1は、児の出生が父親の生活や意識をどのように変えるか、について調べたものであるが、前年度の妻の妊娠の段階におけるよりも、更に父親の多くは、強く父性としての責任を強く意識しており、実際に育児や家事に協力している。しかし、父親自身の生活に育児は大きな圧力となっていることも事実であり、その為の不満も一部の父親においてはかなり強くみられた。

調査2では、幼稚園児と保育園児の父親の育児参加状況を調べたが、その内容に違いはあるにしても、殆どの父親は家庭で児の教育や育児に参加しており、両者の間の育児参加量に差はみられない。同時に父親の育児参加量と児の性格・行動特徴との関連についてみたところ、自律性やがまんする力など数項目に相関がみられた。

調査3では、学童期の父子関係が青年期の父親へのイメージ形成に大きな影響を及ぼしていることが判明した。学童期において父親へ親和的感情をもっていたものの多くは、青年期において父親を敬愛の対象としていた。

見出し語：父性、養育態度、性格形成

研究目的：本研究は前年度の研究を更に発展させ、父性の発達状況を事例を通じて詳細に知ると同時に、幼児期の父子の関わりの状況やそのものの児への影響を明らかにすると共に、学童期における父子関係が青年期の父親に対するイメージ形成にどのように影響するかを明らかにしようとするものである。

研究方法：研究方法は、前年度に引続き、調査1では児の出産による父親の生活や意識の変化を縦断的に捉える為に、質問紙により生後1ヶ月までの児をもつ父親を対象とした調査を実施

した。調査2では父親と幼児の関わり方とその影響をみる為の質問紙調査を東京都と横浜市の幼稚園児と保育園児の父親を対象に行い、調査3では大学生の男女を対象に、学童期における父親との関わり方と現在父親に対してもっているイメージとの関連をみる為の質問紙調査を実施した。

調査1：父子関係と父性の発達についての縦断的研究(1カ月時)

1. 調査目的

本調査の目的は、父親の生活や意識が子ども

* 日本女子大学家政学部 (Faculty of Home Economics, Japan Women's University)

** 国立公衆衛生院 (The Institute of Public Health)

*** 桜美林短期大学 (Obilin Junior College)

**** 和泉短期大学 (Izumi Junior College)

***** 育児文化研究所 (The InStitute of Childcare)

の誕生に伴い、どのように変化していくかを明らかにする縦断的研究である。

2. 調査対象と方法

子供の誕生から成長を追って、アンケート調査を繰り返し行う方法を取り、父親の意識変化の縦断的調査を現在すすめている。今回は、生後1カ月時の調査として、浦安市を中心とした京葉地区在住の26名の父親にアンケート調査を行った。父親の年齢は、25歳から41歳。平均年齢は30.6歳である。いずれも子供は第1子、夫婦と子供のほかに同居の親族がある家庭は1家庭のみで、他は核家族である。

3. 結果と考察

<出産時の状況>

分娩に立ち会った父親は2名、出産には立ち会わなかったが、出産時病院内にいた父親は5名である。大部分が勤務先または自宅で出産の報を受けているが、26人中19名がその日のうちに子供と対面（立会分娩も含む）、2名が翌日対面と、父親達が、速やかに病院に駆けつけていることがわかる。

しかし、出産退院後自宅に直行した例は7例のみで、他は妻または夫の実家に一時滞在している。7割以上の父親が、父子別居の形で父親生活をスタートしている。里帰り期間は10～50日、平均30.6日である。自宅では産後の家事・育児の援助の人手が得にくいことから、父子別居とならざるをえない。

<父親自身の生活時間>

表1は、子供が生まれる前と後とで、父親の生活時間にどのような変化があったのかを尋ねた結果である。仕事の時間についてはほとんど変化はないが、「テレビの視聴時間」「趣味などに過ごす時間」「外に遊びに行く時間」など、楽しみの時間がやや影響を受けていることがわかる。これは、楽しみの対象が子供に向けられた結果とも考えられる。

<家庭内での仕事>

子供の出産前後の父親の家事への関わり方の変化を示したものが図1である。「洗濯」にはやや消極的であるが、家事への参加率は全般に低くはない。子供が生まれてから後の方が家事への関わりが増えている傾向が見られ、産後の母体をいたわって家事を行う現代の若い父親の姿を浮き彫りにされている。

表2は、それらの家事を行うことに対してどのような意識を抱いているかについて問うた結果

	短くなった	変わらない	長くなった
仕事の時間	5	21	—
睡眠時間	12	13	1
テレビの視聴時間	17	9	—
趣味などに過ごす時間	16	10	—
外に遊びに行く時間	21	5	—

図-1 父親の家事への関わり方

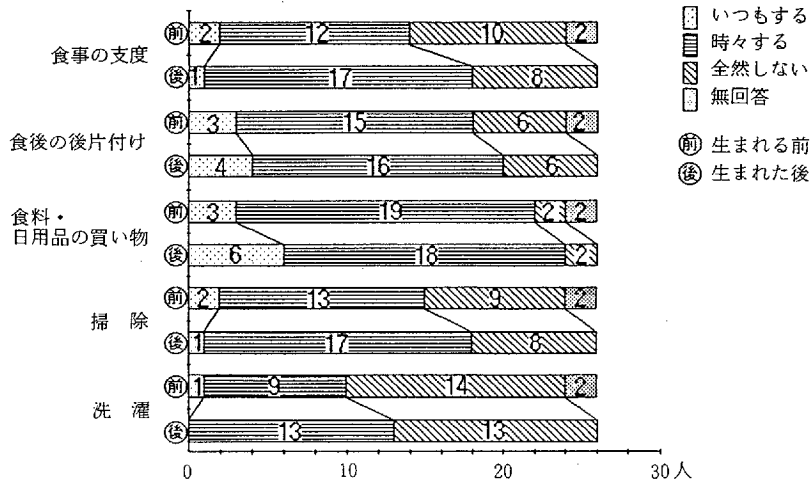


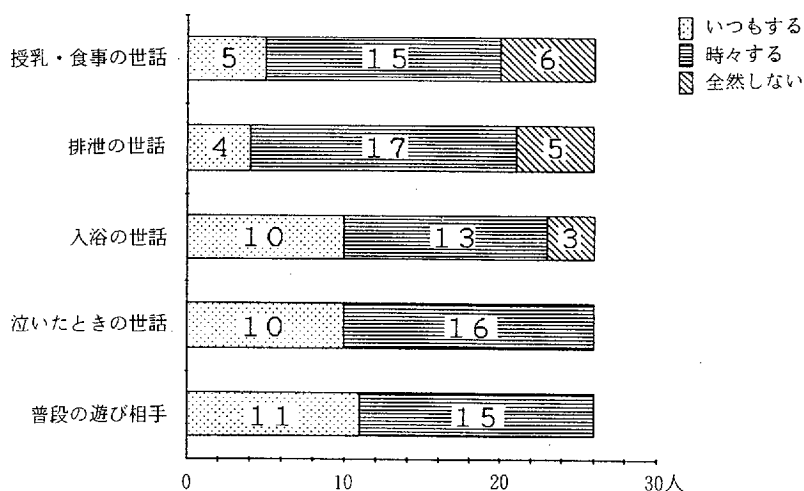
表-2 家事をどう思っているか

	楽しいと思っ ている	当然と思っ ている	やりたくな いと思っ ている	やるべきで ないと思 っている	無回答
食事の支度	2	14	4	1	5
食事の後片付け	1	12	6	1	6
食料・日用品の買い物	6	14	—	—	6
掃除	1	9	7	2	7
洗濯	—	9	8	2	7

表-3 育児をどのように思っているか

	楽しいと思っ ている	当然と思っ ている	やりたくな いと思っ ている	やるべきで ないと思 っている	無回答
授乳・食事の世話	11	9	—	—	6
排泄の世話	6	10	5	—	5
入浴の世話	12	6	3	—	5
泣いたときの世話	10	12	—	—	4
普段の遊び相手	18	4	—	—	4

図-2 父親の育児への関わり方



果である。「掃除」「洗濯」には若干の抵抗感があるものの、大部分が当然のこととやっており、食料・日用品の買い物に関しては、楽しいとさえ思っている父親も少なくない。情報文化の発達や核家族化など、社会環境の変化が父親の家事労働に対する意識の変化に影響をもたらしているであろうことが推察される。

図2と表3は、初めての育児についての父親

の関わり方と意識について尋ねた結果である。

授乳、食事の世話について「全然しない」が6人とやや多いのは、母乳栄養のため父親が世話をする余地が全くない例が含まれているためである。「泣いたときの世話」「普段の遊び相手」は全員がしており、全体に「良くやっている」父親の姿を示す結果となっている。

育児をどのように思っているかについ

ては表3に示すとおり、「楽しいと思ってやっている」「当然と思ってやっている」に回答が集中しており、「やりたくないと思っている」のは「排泄の世話」の5名と、「入浴の世話」の3名のみ、「やるべきでないと思っている」との回答はなかった。

入浴の世話をしたくないのは赤ちゃんの沐浴技術の難しさが原因しているとも想像される。

＜生活全般の変化＞

表4に示すとおり、父親の「こづかい」についてはほとんど変化がなかったが、「生活の自由」や「夫婦だけの時間」「妻の自分に対する世話」「妻のおしゃれ」については、大部分が「変化あり」と答えている。そして夫婦および妻に関する項目については、変化について「不満」の意を表すものが少なくない。しかし、これは、子供が生まれても「夫婦の関係も大事にして欲しい」「自分の方も向いて欲しい」という夫から妻への微笑ましいメッセージと理解し

てもよさそうである。

＜父親としての意識＞

表5は、父親としての意識を感じるときについて尋ねた結果である。

今回の調査の対象となった父親はいずれも定職があり、まだ生後1カ月ということでもあるので、将来の生活への不安については感じないものがやや多かったが、他の項目については、それぞれに、父親としての実感を感じている様子がよくわかる結果が得られた。中でも「扶養の責任」「父親としての生きがい」「家族らしくなったことへの喜び」を、多くの父親が強く感じている。喜びと責任感を感じながら父親としての第一歩を歩み始めた姿をそこに見いだすことができる。

表6は、赤ちゃんの顔を見たときの父親の感情についてである。全員が赤ちゃんの顔を見ると「思わず声をかけたくなる」と答えている。父と子の心の交流が早くも始まっている様子が

表-4 生活全般の変化

	大いに変化あり	やや変化あり	変化なし
心身の疲労	-	14 (仕方なし13・満足1)	12
小遣いの額	4 (不満2・仕方なし2)	1 (仕方なし1)	21
生活の自由	7 (仕方なし7)	15 (不満1・仕方なし10・満足4)	4
夫婦だけの時間	15 (不満3・仕方なし12)	8 (不満2・仕方なし6)	3
妻の自分に対する世話	10 (不満6・仕方なし4)	11 (不満2・仕方なし9)	5
妻のおしゃれ	7 (不満4・仕方なし3)	11 (不満1・仕方なし8・満足2)	8

表-5 父親としての意識

	強く感じる	少し感じる	感じない	無回答
父親としての扶養の責任を感じる	21	5	-	-
父親として毎日世話をする責任を感じる	11	13	2	-
父親としてしつけ・教育の責任を感じる	13	12	1	-
父親としての生きがいを感じる	16	9	1	-
家族らしくなったことに喜びを感じる	17	8	-	1
将来の生活への不安を感じる	2	13	11	-

表-6 赤ちゃんの顔を見たときの感情

	いつも感じる	時々感じる	全然感じない	無回答
思わず声をかけたくなる	25	1	-	-
一日の疲労を忘れる	13	11	2	-
不思議な気がする	7	15	4	-
自分が大変だなあと感じる	-	18	8	-
妻が大変だなあと感じる	19	7	-	-
子どもが大変だなあと感じる	1	11	11	3
親としてがんばろうと思う	14	12	-	-
わずらわしいと感じる	-	9	17	-

表-7 赤ちゃんが生まれてしてみたいと思うこと

	強く思う	少し思う	思わない
成長をビデオに撮りたい	15	10	1
テレビや雑誌に出したい	2	8	16
ベビースイミングに行かせたい	9	10	7
親子ペアの洋服を着て街を歩きたい	4	7	15
赤ちゃん時代からの早期教育を受けさせたい	-	9	17
子連れで海外旅行がしたい	11	11	4
時には妻と二人で出かけたい	6	16	4
日本の伝統的祝いごとはやりたい	7	10	9

よくわかる。「妻が大変だろうなあ」という妻へのいたわりの気持ちも全員の父親が抱いており、新しい家族関係の中で、父親としての意識も夫としての意識も、子供との関わりを通して育てている姿が、見てとれる。

赤ちゃんの顔を見たとき「わずらわしいと時々感じる」父親が9名いるが、これらの父親の他の回答を見るかぎり、必ずしも子供に対して拒否的な父親であるとはいききれない。この9名の中には、育児に大変積極的な父親も含まれており、母親と同様に、泣く度に「おっばいだろうか」「おむつだるうか」と、反応してしまう結果がこの回答になっているとも見られ、この9名が、今後の調査で、どのような父親に変化していくのかは興味深いところである。

表7は育児に関する情報や産業が多い今日の育児環境のもとで、話題になっているそれらの事柄に関して、父親がどのような気持ちを抱い

ているのかについて聞いた結果である。「成長をビデオに撮りたい」父親が多いのは、予想どおりであるが、注目したいのは、「子連れで海外旅行がしたい」という回答が非常に多い点である。情報文化の中でイメージ化された「幸せな家族像」がどのようなものであるのか、現代の若い父親の家族意識の表現や、家族であることの喜びについての表現がどのような形で表されるのかということについて、この結果は示唆に富んでいるといえよう。

今回の調査では、以上のような結果が得られた。前回、妊娠中のグループに対して調査した時点では、母親が「子供が生まれることにより子供中心の生活になり、自分の生活の自由が圧迫される」ことを予測しているのに対し、父親の側は子供が生まれてからの自分と子供との関係について具体的なイメージなく、「子供が生まれることによって、家族に対する責任が重く

なる」など、生まれる前と後との差を量的変化として捉えているという特徴が見られた。

一方、今回の生後1カ月の調査では、父親達が直接子供とふれあい、「子供との関係についての自分の生活や意識の変化」について、質的变化を実感する言葉での回答を得た。

子供が生まれる前と後とで、父親の意識に大きな変化があること、また、子供との関わり、子供のいる生活を、喜びをもって受け入れている今日の若い父親像がクローズアップされた。

1カ月の調査の後、同じ対象に4カ月、6カ月と、調査を継続中である。月数を重ねるとともに父親としての意識は確かなものに定着していく傾向が見られるが、家事への関わりについては後退傾向が見られる。また、育児については、積極的にやる父親、あまりやらない父親、苦手なものはやらない父親など、ばらつきが出る傾向が見られる。さらに「排泄の世話」「泣いたときの世話」については、「やりたくない」父親が増える傾向も見られる。

「子供が生まれてしてみたいと思うこと」も子供の成長と共に変化が出てくる傾向があり、「早期教育」への関心が出てきたり「祝い事」をやりたい気持ちが強まるなど、個々における変化が出てくる。

子供の成長に伴って、父親の意識のどの部分にどのような変化が生ずるのか、さまざまな父親像を持つそれぞれの父親が、どのような点で父親としての喜びを感じるのか、どのようなことで父親としての意識を強く抱くのか、この調査を通じて明らかにしていきたい。また、現代という時代性の反映を、父親がどのように父親意識の中に取り込んでいくのかも明らかにしていきたいと考える。

調査2：父親の育児参加と幼児の行動傾向

1. 調査目的

父親の育児への参加状況および子どもとの親和状況と、子どもの行動傾向との間の関連性をさぐるものとするものである。

2. 調査方法および対象

幼児をもつ父親を対象に、質問紙法によって
①父親の社会的条件、対象児の兄弟の有無などの条件 ②父親の育児参加の状況 ③子どもに

対する父親の親和度 ④父親の育児参加に対する母親の満足度（父親の判断）などについて調べた。

子どもの行動傾向についての評価は、幼稚園保育園の担任教師、保母に13項目の5段階評定を依頼した。

調査対象者は、東京都、横浜市の1幼稚園、10保育園とその父親674名（幼稚園415名、保育園258名）である。

3. 調査結果および考察

(1) 父親の社会的条件

父親の年齢は、30歳代が59.9%、40歳代が26.6%で、あわせて86.5%であった。職業は、自宅外での仕事が82.5%、自宅での仕事が11.4%であった。

(2) 幼児の行動評価

幼稚園や保育園での幼児の行動状況に対する評価は、表1に示したような結果であった。「とてもよい」と「よい」をあわせて、50%を越える項目は、「先生との親和性」「明朗」「やさしさ」であり、「とても劣る」と「劣る」をあわせて10%を越える項目は「自立状態」「積極性」「がまん強さ」「集中力」であった。しかし全般的には「ふつう」以上の評価であり、「劣る」という評価は少ない。これらの13項目について、因子分析を行ったところ、第1因子にすべての項目が0.5以上の負荷量を示し、因子としては抽出できなかったものの、すべての項目がお互いに関連しあっていることがわかった。

(3) 父子関係

表2に示したように、父親の育児参加で多いものは「挨拶をかわす」「旅行をする」「食事中騒ぐと注意をする」「父母参観日に出席する」などであった。20項目の育児参加について参加得点を算出し、10段階に分布させたところ、中央値以上の得点者は、52.8%であり、自己評価としての参加度はそれほど低いものではなかった。

父親の親和性について表3に示した。「遊びたがる」が最も多く、次に「手をつなぎたがる」「風呂に入りたがる」などであったが、全般的には、子どもは父親との接触を望んでいる状況であることがわかる。

父親の自己評価による、父親の育児参加に対

する母親の満足度については、表4に示した。父親は「行事への参加」「家族との外出」「入浴の世話」に、自ら高い評価を与えているが、子どもが強く望んでいる「遊び相手」については、あまり高い評価とはいえない。

(4) 父子関係と行動評価

表5に示したように、今回の調査では、幼児の行動状況に対して、父親の育児参加が大きな影響力をもっているという結果は得られなかった。この結果については先にも述べたが、幼稚園

での評価は、「ふつう」またはそれ以上の評価に集中する傾向が強かった為とも考えられたので、幼稚園、保育園に分けて検討してみたところ、保育園児の「自立」と「がまん強さ」に父親の育児参加の有無が影響を及ぼしていることがわかった。

しかし、これだけではまだ不十分であり、今後さらに、父子関係と幼児の行動傾向について、きめ細かい調査が必要である。

表1 幼児の行動評価

項目	とてもよい	%	よい	%	ふつう	%	劣る	%	とても劣る	%	NA	%
先生との親和性	128	19.0	353	52.5	177	26.3	9	1.3	1	0.1	5	0.7
明朗	102	15.2	292	43.4	252	37.4	22	3.3	1	0.1	4	0.6
言語表現能力	100	14.9	212	31.5	308	45.8	44	6.5	5	0.7	4	0.6
やさしさ	100	14.9	314	46.7	243	36.1	11	1.6	1	0.1	4	0.6
創造力	93	13.8	216	32.1	309	45.9	48	7.1	3	0.4	4	0.6
積極性	83	12.3	200	29.7	304	45.2	77	11.4	5	7.0	4	0.6
集中力	83	12.3	203	30.2	311	46.2	66	9.8	6	0.9	4	0.6
運動能力	66	9.8	202	30.0	349	51.9	44	6.5	6	0.9	6	0.9
規律性	65	9.7	248	36.8	317	47.1	34	5.1	4	0.6	5	0.7
自立状態	63	9.4	254	37.7	293	43.5	55	8.2	4	6.0	4	0.6
情慮の安定性	63	9.4	226	33.6	332	49.3	46	6.8	3	0.4	3	0.4
がまん強さ	57	8.5	203	30.2	334	49.6	72	10.7	3	0.4	4	0.6
協調性	47	7.0	197	29.3	360	53.5	62	9.2	3	0.4	4	0.6

表2 父親の育児参加（幼保の合計）

項目	いつも	%	時々	%	たまに	%	全くない	%	NA	%
挨拶をかわす	482	71.6	115	17.1	59	8.8	9	1.3	8	1.2
旅行をする	358	53.2	134	19.9	133	19.8	33	4.9	15	2.2
食事中騒ぐと注意	308	45.8	217	32.2	121	18.0	17	2.5	10	1.5
父母参観日に出席	286	42.5	153	22.7	108	16.0	109	16.2	17	2.5
暇な時共に過ごす	280	41.6	216	32.1	141	21.0	30	3.0	16	2.4
父母競技に参加	279	41.5	132	19.6	113	16.8	124	18.4	25	3.7
片づけを注意	250	37.1	241	35.8	137	20.4	35	5.2	10	1.5
挨拶の仕方を注意	240	35.7	239	35.5	132	19.6	53	7.9	9	1.3
朝食をとる	231	34.3	159	23.6	189	28.1	84	12.5	10	1.5
夕食をとる	212	31.5	256	38.0	184	27.3	9	1.3	12	1.8
日常の会話	209	31.1	298	44.3	141	21.0	12	1.8	13	1.9
手洗いの注意	194	28.8	219	32.5	170	25.3	80	11.9	10	1.5
けいこ事に関心	155	23.0	225	33.4	186	27.6	93	13.8	14	2.1
風呂に入る	143	21.2	323	48.0	181	26.9	17	2.5	9	1.3
ゲームをする	77	11.4	329	48.9	223	33.1	34	5.1	10	1.5
散歩をする	75	11.1	334	49.6	214	31.8	41	6.1	9	1.3
着替えを注意	74	11.0	191	28.4	244	36.3	156	23.2	8	1.2
スポーツをする	57	8.5	290	43.1	223	33.1	90	13.4	13	1.9
病気時の送迎	51	7.6	81	12.0	167	24.8	313	46.5	61	9.1
本の読みきかせ	34	5.1	192	28.5	292	43.4	146	21.7	9	1.3

表3 父親に対する親和性（幼保合計）

項目	いつも	%	時々	%	たまに	%	全 な い	%	NA	%
遊びたがる	409	60.8	156	23.2	79	11.7	19	2.8	10	1.5
手をつなぎたがる	260	38.6	259	38.5	121	18.0	25	3.7	8	1.2
風呂に入りたがる	252	37.4	238	35.4	133	19.8	41	6.1	9	1.3
すぐ質問する	214	31.8	283	42.1	135	20.1	33	4.9	8	1.2
隣に座りたがる	212	31.5	205	30.5	180	26.7	66	9.8	10	1.5
旅行で隣に座りたがる	190	28.2	253	37.6	147	21.8	73	10.8	10	1.5
話したがる	187	27.8	263	39.1	176	26.2	38	5.6	9	1.3
本を読んでもらいたがる	167	24.8	246	36.6	181	26.9	71	10.5	8	1.2
買い物でねだる	126	18.7	217	32.2	217	32.2	103	15.3	10	1.5
真似をする	120	17.8	250	37.1	209	31.1	83	12.3	11	1.6

表4 育児参加に対する母親の満足度（父親の自己評価による）

項目	満足	%	まあ満足	%	不満	%	NA	%
行事の参加	325	48.3	236	35.1	89	13.2	23	3.4
家族との外出	295	43.8	258	38.3	100	14.9	20	3.0
入浴の世話	275	40.9	295	43.8	84	12.5	19	2.8
遊び相手	229	34.0	302	44.9	122	18.1	20	3.0
食事の世話	187	27.8	376	55.9	89	13.2	21	3.1
言葉のしつけ	180	26.7	376	55.9	92	13.7	25	3.7
家事育児協力	177	26.3	337	50.1	139	20.7	20	3.0
家庭教育	165	24.5	361	53.6	128	19.0	19	2.8

表5 父子関係などと幼児の行動評価

項目	育児参加	育参・幼	育参・保	親和感	満足感
積極性			*		
自立状態					
明朗					
集中力		+			
創造力					
言語表現能力					
協調性					
規律性		+			
運動能力					
やさしさ					*
情緒の安定性					
がまん強さ			*		+
先生との親和性				+	+

+P<0.1 *P<0.05 **P<0.01
***P<0.005

調査3：学童期の父子関係と青年期における父親のイメージ

1. 調査目的

男女大学生を対象として、学童期の父子関係が、現在の父親に対するイメージにどのように影響しているかを明らかにする。

2. 調査方法および対象

質問紙法により、①父親の社会的条件 ②学童期の父親の育児参加 ③子どもからみた親和性 ④現在の父親のイメージ ⑤学童期に父親に抱いた期待 ⑥学童をもつ父親への現在の要求、などについて調べた。

調査対象者は、2短期大学、4大学の大学生920名（男子297名、女子623名）である。

3. 調査結果および考察

(1) 父親の社会的背景

父親の社会的条件のうち、現在の父親の年齢は、40歳代と50歳代で95.2%を占めていた。

調査対象者が小学生期の父親の職業は、会社員60.0%、自営業20.8%、公務員11.7%であり、単身赴任は延べ19.5%の父親が経験していたが、小学生期の単身赴任経験者は6.2%であった。

家族構成は、核家族が72.5%、三世代家族が27.2%であった。

(2) 父親のイメージ

表1に示したように、50%以上の者が抱いて

いる父親のイメージは、「仕事熱心」「真面目」「努力家」「家族思い」「やさしい」「頼りになる」「尊敬できる」などの項目に、「頑固」が加わっている。

今回調査した24項目のイメージについて因子分析を行った結果、第1因子として父親に対する「敬愛度」、第2因子として父親の「厳格度」の2因子を抽出した。

これらの因子ごとの因子得点を算出し、10段階に分布させたところ、因子得点の中央値以上の者は「敬愛度」については80.7%、「厳格度」については54.2%を占めていた。

以上をまとめてみると、現在の多くの大学生は、「父親を敬い、親しみももっているが、厳格で頑固な面もある」というイメージを抱いているということになる。

(3) 父子関係の状況

学童期の父親の育児参加、親和性、学童期の期待について、表2～4にまとめた。

小学生期の父親の育児参加は「一緒に夕食をとる」「悪いことをすると叱る」「休日には家族と外出する」「一緒に遊ぶ」が主なもので、「細かく注意をしたり、一緒に家の仕事をしたり食事を作ったり、宿題をみたりPTAに参加したり」というように、こまめに関わることはあまりしていない。また、量的にも父親の育児参加は多いとは言えない結果であった。夕食を共にすることが多かった点（「いつも」55%）は、調査2の幼児の父親（「いつも」31.5%）と比較すると変化がわかる。10年ほど前は、まだ父親にも時間的余裕があり、家族で夕食を共にするという風潮も強かったということであろうか。

学童期の親和性についてみると「働いている父親は偉い」「困った時父親は頼りになる」の2項目が50%以上であったが、「父親がそばに

いても緊張することはない」と言いつつ「父親には何でも話せる」という者は少ない。

学童期に父親に期待していたことの主なものは、「本やおもちゃを買う」「休日には家族と外出する」「一緒に遊ぶ」の3項目であったが、大学生になった現在では、自分が経験した以上の、また広範囲の接触を、父親に要望しており、父親の育児参加への期待が大きいことが伺えた（表は省略）。

(4) 父子関係と父親のイメージの関連

父子関係と父親のイメージの関連については、表5に示した。これをみると、有意差が多かったのは、父親の社会的条件よりも「父親に対する現在の要求」を除く父子関係の方であった。すなわち、父親のイメージは、父親の社会的条件よりも、父子関係のあり方によって決まる可能性が高いということである。

このことは、父子関係と第1因子の敬愛度および第2因子の厳格度についても同様であった。

父親のイメージを形成しているものは、父親の育児参加の有無であり、その結果生まれる父親に対する親和性である。子どもが学童期、父親の育児参加の度合いはそれほど高くはないものの、子どもは父親を敬愛すればするほど、より多くの接触を、父親に期待しているのである。

以上の如く3種類の調査結果から父親の存在なり、役割遂行についての知見を得たが、更に父子の関わり方についてより深く掘下げた研究を行うため、縦断的研究の年齢的な巾を拡げ、父子関係の発達の実態を捉え、父親が本来果すべき役割を明らかにすると共に、父子の関わり方の質的な面についてもより詳しく調べてゆきたい。

表1 現在の父親に対するイメージ

イメージ	その通り	%	どちらとも	%	違 う	%	NA	%
仕事熱心	706	76.7	174	18.9	35	3.8	5	0.5
真面目	612	66.5	247	26.8	55	6.0	6	0.7
努力家	548	59.6	294	32.0	73	7.9	5	0.5
家族思い	533	57.9	314	34.1	66	7.2	7	0.8
頑 固	532	57.8	240	26.1	142	15.4	6	0.7
やさしい	500	54.3	342	37.2	71	7.7	7	0.8
頼りになる	488	53.0	343	37.3	81	8.8	8	0.9
尊敬できる	475	51.6	340	37.0	97	10.5	8	0.9
明るい	447	48.6	391	42.5	77	8.4	5	0.5
頭がよい	413	44.9	413	44.9	89	9.7	5	0.5
人情にあつい	412	44.8	416	45.2	84	9.1	8	0.9
強 い	403	43.8	418	45.4	94	10.2	5	0.5
ユーモアがある	400	43.5	395	42.9	118	12.8	7	0.8
自己中心的	363	39.5	287	31.2	261	28.4	9	1.0
男らしい	345	37.5	478	52.0	90	9.8	7	0.8
厳しい	327	35.5	367	39.9	222	24.1	4	0.4
おおらか	292	31.7	417	45.3	199	21.6	12	1.3
口うるさい	246	26.7	296	32.2	370	40.2	8	0.9
ものわかりがよい	243	26.4	422	45.9	249	27.1	6	0.7
いばっている	237	25.8	305	33.2	372	40.4	6	0.7
楽道家	203	22.1	438	47.6	272	29.6	7	0.8
教育熱心	180	19.6	449	48.8	282	30.7	9	1.0
だらしがない	155	16.8	293	31.8	465	50.5	7	0.8
相談しやすい	144	15.7	418	45.4	352	38.3	6	0.7

表2 学童期の父親の育児参加

項 目	いつも	%	時々	%	たまに	%	全 然 じ	%	NA	%
一縮に夕食をとる	506	55.0	317	34.5	84	9.1	9	1.0	4	0.4
悪いことをすると叱る	333	36.2	313	34.0	214	23.3	57	6.2	3	0.3
休日は家族と外出	101	11.0	378	41.1	372	40.4	62	6.7	7	0.8
一緒に遊ぶ	89	9.7	449	48.8	322	35.0	56	6.1	4	0.4
テレビや漫画の見方を注意	91	9.9	216	23.5	339	36.8	271	29.5	3	0.3
一緒に家の仕事をする	65	7.1	327	35.5	405	44.0	120	13.0	3	0.3
困ったときに相談にのる	77	8.4	150	16.3	369	40.1	317	34.5	7	0.8
PTAや授業参観に出席	68	7.4	198	21.5	342	37.2	308	33.5	4	0.4
宿題などの勉強をみる	54	5.9	207	22.5	376	40.9	280	30.4	3	0.3
食事をつくる	24	2.6	163	17.7	387	42.1	342	37.2	4	0.4

表3 学童期の父親に対する親和性

項 目	そ の り	%	あまり	%	全 然	%	わ かり ない	%	NA	%
働いて偉い	589	64.0	227	24.7	37	4.0	63	6.8	4	0.4
困った時頼りになる	474	51.5	264	28.7	89	9.7	87	9.5	6	0.7
心配をかけたくない	442	48.0	295	32.1	88	9.6	89	9.7	6	0.7
あなたを理解している	365	39.7	320	34.8	71	7.7	158	17.2	6	0.7
家にいるとほっとする	343	37.3	358	38.9	123	13.4	86	9.3	10	1.1
そばにいと緊張する	161	17.5	262	28.5	439	47.7	52	5.7	6	0.7
何でも話せる	89	9.7	432	47.0	313	34.0	80	8.7	6	0.7

表4 学童期に父親に期待したこと

項目	非常に	%	かなり	%	あまり	%	全然	%
本や玩具を買ってくれる	348	37.8	310	33.7	197	21.4	48	5.2
休日は家族と外出する	268	29.1	360	39.1	230	25.0	44	4.8
一緒に遊んでくれる	203	22.1	378	41.1	280	30.4	44	4.8
一緒に夕食をとる	138	15.0	279	30.3	408	44.3	75	8.2
社会の仕組みを教える	127	13.8	218	23.7	380	41.3	177	19.2
礼儀や習慣などを教える	109	11.8	269	29.2	388	42.2	138	15.0
宿題などの勉強をみる	92	10.0	211	22.9	453	49.2	146	15.9
困った時相談にのる	79	8.6	239	26.0	446	48.5	138	15.0
PTAや授業参観に出席	65	7.1	179	19.5	433	47.1	226	24.6
食事をつくる	45	4.9	130	14.1	447	48.6	279	30.3

表5 父子関係および父親の社会的条件とイメージの関連
カイ二乗検定による有意差, []内は負の関係

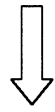
イメージ	親和性	育児参加	学・期待	現・要求	父親年齢	父親職業	単身赴任	性別
仕事熱心	***	*	**	-	-	-	-	-
真面目	**	**	**	**	-	**	-	-
努力家	***	***	**	-	-	-	-	-
家族思い	***	***	***	-	-	-	-	-
頑固	-	-	-	-	-	-	-	-
やさしい	***	***	***	*	-	-	-	*
頼りになる	***	***	***	*	-	-	-	-
尊敬できる	***	***	***	*	-	-	-	-
明るい	***	***	*	-	***	-	-	*
頭がよい	***	***	***	***	-	-	**	-
人情にあつい	***	***	**	-	-	-	-	-
強い	-	***	*	-	-	**	-	-
ユーモアがある	***	***	***	-	*	-	-	-
自己中心的	[***]	-	[**]	-	-	-	-	-
男らしい	***	***	***	-	-	*	-	-
厳しい	-	***	**	-	-	-	-	-
おおらか	***	***	***	-	-	-	*	-
口うるさい	[**]	[*]	-	-	-	-	-	-
ものわかりがよい	***	***	***	-	-	-	-	-
いばっている	[**]	-	[*]	-	-	-	-	*
楽道家	***	-	-	-	-	-	-	*
教育熱心	**	***	***	***	-	***	-	-
だらしない	[***]	[***]	[**]	-	-	-	-	-
相談しやすい	***	***	***	***	-	-	-	-

*P<0.05 ** P<0.01 *** P<0.005



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



要約:今年度は、前年度に計画し、一部実施した調査1.調査2.調査3.の3種類の調査を行い、次のような結果を得た。

調査1は、児の出生が父親の生活や意識をどのように変えるか、について調べたものであるが、前年度の妻の妊娠の段階におけるよりも、更に父親の多くは、強く父性としての責任を強く意識しており、実際に育児や家事に協力している。しかし、父親自身の生活に育児は大きな圧力となっていることも事実であり、その為の不満も一部の父親においてはかなり強くみられた。

調査2では、幼稚園児と保育園児の父親の育児参加状況を調べたが、その内容に違いはあるにしても、殆どの父親は家庭で児の教育や育児に参加しており、両者の間の育児参加量に差はみられない。同時に父親の育児参加量と児の性格・行動特徴との関連についてみたところ、自律性やがまんする力など数項目に相関がみられた。

調査3では、学童期の父子関係が青年期の父親へのイメージ形成に大きな影響を及ぼしていることが判明した。学童期において父親へ親和的感情をもっていたものの多くは、青年期において父親を敬愛の対象としていた。